

令和7年度 かほく市立金津小学校 学校評価中間報告書

経営目標		取組内容	主担当	(昨年度末最終達成状況) 現 状	評価の観点	達成度判断基準	備考	取組状況	達成度(判定)	後期の方向性 (改善計画等)	学校関係者評価者(学校運営協議 会委員)による意見	
1	学力の向上	ア★「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、授業改善を図る。	学習指導 (関)	(A:90%以上) ・授業の始まりにゴールの姿を児童と共有し、学習方法や道具を選択し、自己決定する機会を増やすようにした。また、個に応じた指導のために、児童の見取りを大切にすることができた。	【努力指標】 個に応じた指導や支援を行うために、考えをもつ時間や場を設定して、学び合いにつなげることができた。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合、要因を明らかにして、重点の再確認・検討をする。	教員自己評価	・どの学級においても、児童の実態に応じてゴールを明確に示し、見通しを持たせる手立てをとることができた。	100% (1:40%) (2:60%)	A ・相互参観週間や授業の機会を生かしながら、教員同士でさらに高め合えるようにする。	
		イ学び合いの土台となる「金津っ子学びのスタイル～あさはよし～」の着実な定着を図る。	学習指導 (関)	(B:80%以上) ・相互参観の時期に合わせて、それぞれのクラスで「あさはよし」のめあてを決めて取り組みを行った。自分たちのレベルアップを目指してめあてを設定し、指導する教員の意欲も高かった。	【成果指標】 5つの項目について、児童は常に意識し、一定の定着率に達している。	「あさはよしを意識して学習に取り組むことができた」と回答する児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	児童アンケート	・昨年度に定着していたこともあり、「あさはよし」の意識をもつことができている。教員もあさはよしの指導を共通して行っている。	90.9% (1:63.6%) (2:27.3%) (3:5.5%) (4:3.6%)	A ・掲示に花丸等のマークを貼ることで児童の頑張りを価値づけるとともに、児童にさらに意識づけさせていく。	
		ア★1人1台端末の積極的な活用で効果的な学習に努める。	GIGA推進 (北)	(A:年間7回以上) ・今後も月1回程度の研修を行い、効果的な活用方法について共通理解していく。	【努力指標】 考えを交流する場面や学習を深める場面でICTを活用することができる。	ICT活用についての授業実践研修会を A:年間7回以上 B:年間6回以上 C:年間5回以上 D:年間4回以下	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	GIGA校内研修会	・月1回のICTを用いた公開授業を通して、効果的な活用方法を学んだり、活用しようとする気持ちを高めている。	(9/10時点:3回)	A ・月1回程度の公開研修を今後も継続して行っていく。	・改善計画どおりをお願いしたい。
		5カリキュラム・マネジメントを推進し、自ら考え行動する力を育成に努める。	教務 (釜井)	(A:90%以上) ・総合的な学習の時間と生活科だけでなく、算数科や他の教科でも同様に実践するなど、取組範囲が広がった。	【満足度指標】 1人1台端末を使った授業が楽しいと感じている。	楽しいと感じている児童が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	Cの場合には、指導のあり方を検討する。	児童アンケート	・児童は端末の活用について肯定的に捉えている。夏季休業中に通信環境が改善し、より活用しやすくなった。	98.2% (1:80%) (2:18.2%) (3:1.8%)	A ・自己決定を通してよりよい学び方を身に付けられるよう、積極的、意図的な活用を行う。	
				(A:90%以上) ・探究的な活動の流れが児童にも定着しており、課題設定を児童としっかり共有することができた。また、単元を通して、見通しをもった活動ができていた。	【努力指標】 肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:80%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価			100% (1:60%) (2:40%)	A ・児童とつけたい力をはじめに確認することや振り返りの仕方をもっと充実させていきたい。	
2	生徒指導の推進	ア「めあて」や「きまり」に対する自己評価を定期的に行い、よりよい行動への意識と実践力を高める。	生徒指導 (柳田)	(A:90%以上) ・生活目標の取り組み方に慣れてきている。学校生活の生活習慣の一部ようになっていてほしいので、継続していく。	【成果指標】 生活目標を意識し、よりよい行動ができるように取り組んでいる。	生活目標のふり返しにおいて、児童肯定的な評価をする児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組項目や方法について再検討する。	生活目標集計表	・生活目標の達成に向けて、前向きに取り組んでいる。6月「ろうかや階段を正しく歩こう」については、6年児童の自己評価が低かった。	94.0% (4月:90%) (5月:100%) (6月:83%) (7月:97%)	A ・6月と同様の取組を2月に計画しているので、児童が主体的に企画し取組を行うことで、改善を図る。	
				(A:90%以上) ・規則正しい生活に対する意識が高まるように声掛けしていく。またメディアとの付き合い方を児童に啓発していく。	【成果指標】 自己のよりよい生活習慣の定着に取り組んでいる。	肯定的な評価をする児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		児童アンケート	・ゲームやインターネットの利用については、保護者アンケートと児童アンケート(別紙参照)で回答内容に差が見られた。	90.9% (1:60%) (2:30.9%) (3:9.1%)	A ・目標を達成できていない児童に着目し、特に「メディアとの付き合い方」について、考える機会を設定する。生徒指導よりで啓発を図る。	
		イ生徒指導の視点に沿った教育活動を通して、自他を大切にする心情を育成する。	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・今後も継続していき、より一人一人の頑張りを児童にも保護者にも広めていけるようにしていく。	【努力指標】 よさを認める場の設定や、よさを伝えることに積極的に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、自主的・実践的態度を育成するための手立てについて、再検討、工夫を講じる。	教員自己評価	・授業や帰りの会でのいいところ見つけを行い、互いに認め合う雰囲気が醸成されている。	100% (1:100%)	A ・今後も継続していく。11月には生活目標とタイアップし、全校でいいところ見つけを行う。	
				(B:80%以上) ・安心して過ごせる学校をさらに目指して、人の気持ちを考える機会をさらに設けたり、児童に素敵な姿を伝え、広めていく。	【成果指標】 児童は、自分のよさに気づいている。	「自分にはよいところがある」と回答する児童が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、体制及び運営について検討する。	児童アンケート	・児童は、いいところ見つけや教師からの他者評価を受け取ることができしており、自信をもって活動することができている。	90.9% (1:56.4%) (2:34.5%) (3:5.5%) (4:3.6%)	A ・児童の活躍できる場を設定したり、コミュニケーショントレーニングを継続したりしていく。	
		ウ★いじめ・不登校・問題行動の早期発見に努める。事業に対しては全職員での情報共有、迅速なケース会議を開催し、組織的に対応する。	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・未然防止にさらに注力し、保護者と学校とがさらに協力できるように情報を発信していく。	【努力指標】 個別の支援シートを作成した児童を中心に、児童理解と支援を続けるとともに、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		教員自己評価	・週1回のミニ校内支援委員会や日頃の会話で情報交換を密に行い、児童理解と共通実践に生かしている。	100% (1:90%) (2:10%)	A ・今後も情報交換をしながら児童理解に努め、不登校などの予防をするとともに、現在困っている児童の支援を継続していく。	
	ウ★特別支援教育についての理解を深め、だれもが安心して学べる環境を整える。(SSRの活用)	生徒指導 (山口)	(A:90%以上) ・個別に最適な学習の進め方や児童主導の授業スタイルにチャレンジしていく。	【努力指標】 学習や生活に生徒指導の視点を生かしている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価	・自分で考えるつくる授業、行事を通して、自己効力感が育っている。	100% (1:90%) (2:10%)	A ・今後も児童主体の授業、生徒指導の4機能を活かした授業を意識して行っていく。		

3	情操豊かな心の育成	ア	道徳の授業を中心に、道徳教育の推進を図り、道徳性を養う。	道徳教育推進教師（瀧田）	(A:90%以上) ・別業の内容を見なおし、重点目標について意識して指導できるようにしていく。 ・地域とも連携し、ゲストティーチャーを招く機会を設けていく。	【努力指標】 道徳の授業づくりを工夫する。 ア 中心発問の吟味 イ 言語活動の充実 ウ 価値の自覚化 エ 道徳提示の蓄積	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、道徳の授業展開の再検討を図る。	教員自己評価	・重点目標について行事等と絡めながら、目頃から意識して指導できるようにしていく。 ・学年だよりに道徳の授業実践を載せて家庭に知らせる活動を継続する。	100% (1:50%) (2:50%)	A	・ゲストティーチャーを招聘し、より充実した授業をめざしていく。	・改善計画どおりをお願いしたい。
		イ	「金津の森」を活用した自然体験活動や、講師を招いての文化的体験活動、交流活動に取り組み、豊かな感性を養う。	教務（金井）	(A:90%以上) ・年間を通して「金津の森活用計画」を推進することができた。高学年の金津の森プロジェクトは下級生の目にも触れるので、いつかは自分たちでもできるという期待感を高めることができた。 ・3・4年生が新たに金津の森を発見していく手立てを考え、計画を具体化することができた。	【成果指標】 「金津の森活用計画」に基づき概ね活動できている。 【努力指標】 肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、その要因を明らかにし、金津の森活用計画の内容について再検討する。	教員自己評価	・金津の森を活用した体験活動は充実しており、必要な学年は講師を招聘することができた。	100% (1:80%) (2:40%)	A	・金津の森を活用するにあたって、系統的な活用の仕方ができるように調整していきたい。	
		ウ★	幼小連携では園との交流会の設定、小中連携では授業参観や情報の共有等を通して、幼小・小中のスムーズな接続を推進する。	教務（金井）	(A:90%以上) ・幼小連携では、交流活動を通して園児との円滑な接続を図ることができた。 ・小中連携では、合同学習会や情報交換を通して学びをつなげていくことができた。	【努力指標】 幼小の交流活動、小中の教職員の合同学習会や相互授業参観、情報交換会の開催に取り組む。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価	・幼小連携においては、交流活動を行うことで、相互理解を深めることができた。小中連携では、合同学習会や情報交換を通して実態の把握をすることができた。	100% (1:70%) (2:30%)	A	・幼小の継続的な交流活動や保護者参観を通して、円滑な接続を図る。小中では、授業参観を通して学びをつなげていけるようにする。	
4	健康と体力の向上	ア	「体力アップ1校1プラン」をもとに、体育の授業や「風っ子タイム」のびのびタイムを通して体力向上の目標達成に努める。	特別活動 体力づくり（北）	(A:90%以上) ・今後も教科体育と体育行事を軸にしながら、楽しみながら児童の体力を向上させることができるようにしていく。 ・今後も、風っ子タイムで運動に親しみ機会を設け、運動が楽しいと思える児童を育てていく。	【努力指標】 教科体育において、課題となる運動能力の強化を含め、体力向上に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価	・つけたいた力を明確にし、達成感の感じられる授業開発に取り組んでいる。	100% (1:50%) (2:50%)	A	・今後も教科体育と体育行事を軸にしながら、楽しみながら児童の体力を向上させることができるようにしていく。	・（運動会において）成果が出なかった児童についても、そのがんばりを認める働き掛けを教職員にお願いしたい。（児童同士での認め合いは感じられる） 一運動会やマラソン大会、日頃の体育において、学びの過程を価値付けたり、取り組む姿を勇気付けたりする働き掛けを充実させる。
		イ	健康課題の解決のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携してよりよい生活習慣の定着を図る。	保健安全（山本）	(A:90%以上) ・基本的な生活習慣の確立のために、家庭との連携を図った強化週間を設定する。 ・生活習慣の基盤である「早起き朝ご飯・歯みがき」について関係機関（学校医・栄養教諭等）と連携した指導の充実を図る（保護者参観型形式など）。	【努力指標】 児童が主体的によりよい生活習慣づくりに取り組むために、家庭や関係機関（学校医や栄養教諭等）と連携した指導の充実を図っている。 【成果指標】 家庭の協力を得て、児童は基本的な生活習慣を送らうと取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満 家庭で取り組む強化週間の達成度が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価 強化週間 児童保護者自己評価	・学期に1回の風っ子タイムを通して、運動に親しみ機会を設けている。 ・6月に保護者参観型の学校歯科医による歯みがき教室を実施した。 ・養教による事前指導後に歯みがき強化週間を実施した。全児童が目当てを達成できた。	100% (1:85.5%) (2:14.5%) 100% (1:70%) (2:30%) 保護者 96.6% (1:89.7%) (2:6.9%)	A A A	・今後も風っ子タイムを通して、運動に親しみ児童を増やす。 ・児童の健康課題を捉え、地域資源を活用した取組を取り入れていく。後期は大学職員による性教育を実施する予定である。	
5	家庭や地域から信頼される学校づくりの推進	ア	各種たよりやホームページ等により、積極的に学校の情報を発信する。	教頭（遠田） 情報（北）	(A:90%以上) ・コドモンでは、スマートフォンで見える保護者も多いと思われるため、スマートフォンでも見やすいように写真を多く入れた。文字の大きさに配慮したりした便りを心掛けていく。 ・今後も計画的に配信や更新を行っていく。また、ホームページの更新も保護者に伝えている。	【努力・満足度指標】 HPや学校だより等各種たよりで、学校の情報を発信している。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満 肯定的な評価をする保護者が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満	Bの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価 保護者アンケート	・コドモン（電子媒体）の活用により、保護者に対する情報発信をさかんに行っている。ホームページの更新も積極的に行っているが、地域への発信については、工夫が必要である。	100% (1:80%) (2:20%) 100% (1:75.9%) (2:24.1%)	A A	・学年だよりの他、校務分掌から通信を発信するなど、発信内容を工夫する。 ・学校だよりの配信時期を少しでも早め、保護者のニーズに対応する。	・改善計画どおりをお願いしたい。
		ア	効率的効果的な働き方を意識した業務内容の見直し、及び定時退校日、学校閉庁日の意識化を図り、時間外勤務時間80時間越えゼロ、年間360時間以下を目指す。	教頭（遠田）	(A:90%以上) ・勤務時間管理を意識した働き方を促すことで、業務改善の意識を高めるとともに、教職に対するやりがいを持てるような職場づくりを目指していく。	【成果指標】 業務改善の取組が勤務時間の改善に表れている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、検討、改善を行う。	教員自己評価	・時間が勤務時間は適正であるが、多くの業務を短時間でこなすことに負荷を感じる職員が多いと考えられる。	90% (1:10%) (2:80%) (3:10%)	A	・職員同士がやりがいを共有できるよう、職員室の環境づくりにも努める。	
6	多忙化改善と人材育成	ウ	学級経営や学校運営への参画意識を高められるようPDCAサイクルを意識した提案と達成状況の把握、責任を持った業務の遂行に努める。	教頭（遠田）	(A:90%以上) ・今後も、全職員の共通理解・共通行動が図られるよう、各担当がわかりやすい提案に努めていく。PDCAについては、特に検証・改善を確実にに行い、さらによりよいものにしていく。	【努力指標】 PDCAサイクルを意識して、担当業務を進めている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	Cの場合には、取組について、指導、改善を行う。	教員自己評価	・行事の運営や学校研究等でPDCAを意識した取組を行っている。	100% (1:50%) (2:50%)	A	・意図的に立ち止まって考える機会をつくり、担当者だけでなく、組織で検証・改善を行う。	・教職員が休憩時間を確保できるような勤務形態を見直したり、事務的な作業を減らしたりして、多忙化改善に努めてほしい。